

定禅寺通市民フォーラム 定禅寺通のこれから —パブリックライフを考える—

仙台市では、定禅寺通の活性化について、平成29年度以降定禅寺通周辺の地域のみなさまとの意見交換や基礎的な調査を行ってきましたが、平成30年4月23日、活性化策の具体化に向けたキックオフとして、市民のみなさまとともにこれからの定禅寺通について考える「定禅寺通市民フォーラム」を開催し、187名ものご来場をいただきました。

フォーラムでは、郡市長のあいさつに続き、芝浦工業大学環境システム学科教授の鈴木俊治氏より「豊かなパブリックライフをつくるには？」と題した基調講演をいただきました。その後、仙台市の定禅寺通活性化に向けた取り組みの紹介を挟み、鈴木氏と4名のゲストのみなさま、コーディネーターとして東北大学大学院工学研究科准教授の姥浦道生氏にご登壇いただき、意見交換を行いました。

ごあいさつ（仙台市長 郡 和子）

今日は私の大好きな、そしてみなさまも大好きでいらっやと思う、定禅寺通のこれからを考える、市民のみなさまとともに初回のフォーラムとなる。

定禅寺通は市民のみなさまの憩いの場であると同時に、文化の発信の場にもなっていると思う。ケヤキ、文化施設、イベントなど、定禅寺通の様々なポテンシャルを生かして、その魅力をさらに磨き上げ、都市としてのポテンシャルを高めていきたい。

今日のフォーラムを通じて、多くの方々に、仙台市の財産とも言えるこの定禅寺通をどのように活用していったら良いかという議論の場をあちこちでつくっていただき、気持ちを醸成していただくことも重要だと思っている。それらをもって、市民のみなさまとともに、定禅寺通をさらに魅力的な場所にしていきたい。



基調講演「豊かなパブリックライフをつくるには？」

（芝浦工業大学環境システム学科教授 有限会社ハーツ環境デザイン主宰 都市デザイナー／プランナー 鈴木 俊治 氏）



私たちの生活には、プライベートな部分とパブリックな部分があり、プライベートな部分だけで成り立っているわけではない。

プライベートは自宅や職場、親しいお店などで、一方のパブリックは公共空間、目の前に広がる定禅寺通もパブリックなスペースだ。そして、パブリックスペースには、民間の土地などでも、公共空間のように使うことができる場所というものを含む。こうしたパブリックスペースでの様々な活動を、「パブリックライフ」と称している。

パブリックライフが豊かな都市では、住民や就業者もとても豊かな人生を送ることができるのではないか。

仙台といえば定禅寺通のケヤキ並木、というイメージが定着していると思う。まさに市民の誇りであり、宝である。今日はこの定禅寺通でのパブリックライフをみなさまと一緒に考えてみたい。

約100年前、ル・コルビジエという大建築家が描いた絵がある。高層ビル、大きな公園、自動車社会を見据えた広い道路などが描かれており、20世紀の都市再開発や郊外開発のモデルとして、世界中でこれを規範とした都市開発が行われてきた。その結果、現代の私たちがこの絵を見ると、どこにでもある都市空間に見える。Sense of Place、場所らしさや地域の特性はどこに行ってしまったのか。

かつての都市は歩行者の空間だった。今では、それぞれの建物の中には色々な生活はあるが、屋外では、車で通り過ぎるだけの空虚な都市空間があまりに多くなってしまった。

もうひとつ、ビクター・グルーエンによる「Life on the Mall」という絵がある。Mallというのは、車が通らずに人々が自由に過ごせる公共的な空間のこと。花壇や緑があって、ベンチがあって新聞を読む人がいたり、カフェがあってお茶を飲む人がいたり、豊かなパブリックライフが描かれている。

このような空間、誰でも自由に使える、好きな時に来て時間を過ごせるという空間があれば、そこでの都市生活は豊かなものになると思う。実は、このような空間はみなさんの身の回りにある。それはショッピングモール。ショッピングモールは、セントラルスペースの周りに色々なお店があり、ベンチがあり、そこに座っていても追い出されることはない。しかも映画館や銀行、行政の出張所、図書館などもあって、まさに都市機能そのものを備えている。グルーエンはショッピングモールの開発者として知られ、都市空間に屋根をかけてパッケージにして郊外に持っていったものがショッピングモールと言える。



このようなショッピングモールの多くは郊外に建設され、都市機能が郊外に転出する一つの要因となった。一方、私たちのまちにはどんどん車が入ってきて、かつての商店街はなくなり、パブリックライフは単調になり、みんな車で移動するようになり、郊外に行くようになってしまった。これが20世紀の大きな都市開発のトレンドと言って過言ではない。

都市を守れ、中心市街地を活性化せよ、という声が世界中の都市で高まっている。もう一度、人と人が触れ合い、ゆったり歩け、くつろぎながらおしゃべりをして、お茶を飲んだりご飯を食べたりできるようにするため、どのようなパブリックスペースを作れば良いか、ということが大きなテーマになっている。はじめに空間ありきではなく、どのような都市生活が望ましいのか、都市生活を支える公共空間・パブリックスペースはどのような形、機能を持つべきか、人間中心に考えることが大切である。

仙台の定禅寺通、この空間を生かすためには、並木道の下でどんな活動ができるかが重要で、その活動が何物にも代えがたいから世界から人々が定禅寺通に集まる、というまちを目指してほしい。



50年ほど前から、パブリックスペースやそこでのパブリックライフを豊かにするにはどうすればよいか、ということに取り組んできた先駆者としてヤン・ゲールがいる。ゲールは、まず観察と記録が大切であるとしている。都市空間を変える上では、観察と記録によるデータに基づき、客観的に検証できるということが、変化を前に進めるひとつの力になる。

また、まちの中での人間の行動には、必要行動、任意行動、社会行動の3つがあるとされている。必要行動は通勤など嫌でもやらないといけないうもの。任意行動は必ずしもやらなくてもよいもので道をぶらぶらしたり、誰かと話したり、というもの。

社会行動はイベントなど、グループで何かを行うもの。100人の人が歩いているとして、必要行動の100人と、任意行動の100人とでは、まちの印象が全く違う。定禅寺通は、必要行動に駆られ、何か目が吊り上っているような人ばかりの空間ではなく、任意行動の多い、みんなゆったりとして、笑顔の多い空間にできる可能性があるのではないかと。

そして、ゲールが指摘したことの中でとてもよいと思うのが、「街のなかに笑顔を増やしたい」ということ。任意行動の多い公共空間にできたら、きっとそのまちは素晴らしい。快適な行動を支えるための場や環境をどのようにデザインすべきか、人間の側から考えることが重要である。そのためにはデータなどに基づく、正しい認識と説得力が必要となる。

例えば道路でイベントをする場合、「このくらいの歩行者通行量となり、自動車交通への影響はこのくらいであったので、自動車通行止めにしても問題ない」といった客観的データを示し、様々な人たちの協力を得ていくことが必要となる。

道路は、今の法律では車や人の通過の空間だが、都市の中に張り巡らされた貴重なパブリックスペースだ。

定禅寺通も、市民、商業者、来訪者など、みんながある種のマナーを守りつつ、自由に使えるパブリックスペースである。定禅寺通ならではの楽しみ方を、いろいろな人ができる空間となれば、今よりもさらに素晴らしい場となるだろう。

定禅寺通活性化に向けた取り組み（仙台市まちづくり政策局定禅寺通活性化室長 田中 徹）



定禅寺通のまちづくりについて、昭和63年に地元で発足した「定禅寺通りまちづくり協議会」とともに検討を重ね、平成2年度の「定禅寺通街づくり総合プラン」の策定をはじめ、地区計画・景観形成地区などのルールづくりや、シンボルロード整備事業を行ってきた。この過程で、中央緑道の利活用を地元の方々とともに検討し、平成15年の定禅寺ストリートジャズフェスティバルの際に一部車両規制の社会実験を行うなど、現在につながる取り組みや、ハロー!定禅寺村などの利活用支援組織が生まれてきた。

しかし最近では人の流れなど、都心部や定禅寺通を取り巻く環境が変化している。定禅寺通をきっかけに、まちなかの回遊性の向上を図り、都心部に面としての賑わいを創出していきたい。

昨年度は基礎的な調査や地元関係者を対象としたイベントを行ったが、今年度は、定禅寺通を人の活動が生まれ、訪れ、滞在したくなる空間とするため、定禅寺通の将来像などについて、道路空間の再構成やエリアマネジメントの導入なども視野に入れて、地元関係者の方々を中心とした協議会組織を立ち上げ、検討を進めていきたい。

また、広く市民のみなさまに情報発信し、ご意見やアイデアをいただきたいと考えている。

意見交換

仙台商工会議所参与 間庭 洋 氏

定禅寺通は、ケヤキや様々なイベントなどで多くの市民に愛されているが、戦災復興計画や地区計画などの私権の制限を含め、沿道や界隈の方々の貢献によって支えられており、市民と地域とが価値観を共有している非常に稀な場所だ。

車線を歩行空間に使うことで人と人の交わりに貢献し、ビジネスとして、また、社会資源としての価値を高め、市民の方も憩えて生活を豊かにできる場となればよい。また、沿道事業者にも、建物を一般の人が気軽に入りやすい用途にさせていただくなど、ご協力をいただきたい。

定禅寺通の街並みが、世代が変わってもずっと愛されるよう、母体となる協議会のような場を設け、みんなで力を合わせてよいまちにしていきたいと考えている。



株式会社仙台協立代表取締役 氏家 正裕 氏



定禅寺通には多くの素敵なビルやテナントがあるが、間口が狭いなどの課題があり、恒常的な集客になかなか繋がらない部分がある。しかし、定禅寺通の借景は高いポテンシャルをもっている。

歩道や車道の空間の一部を使い、外に開かれたお店をつくれれば、多くの市民や観光客に対し定禅寺通に来る目的がしっかりとできるのではないかと考えている。定禅寺通の借景を利用できる仕掛け、集客装置としての公共空間が欲しい。

今後の検討では、過去にご尽力された方々や行政、もちろん、多くの市民の方々の声を聞きながら進めていくのがよいのではないかと考えている。



公益社団法人定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会代表理事 武藤 政寿 氏

定禅寺ストリートジャズフェスティバルでは、定禅寺通の北側3車線を通行止めにしており、線だけではなく面として活用できると良い。

また、観客のみならず、ご高齢の方や家族連れも多い。ハード面も含めて、安全・安心というキーワードは重要であり、取り組むべき課題だと考えている。

素敵なまちと音楽はセットだと思う。定禅寺通を中心に、日常的に音楽が鳴っているまちという風景になれば、本当の意味で楽都仙台と言われるようになるだろうし、今以上に多くの方々に楽しんでいただくことができるのではないかと考えている。



東北大学大学院工学研究科 南澤 恵 氏



ただ歩くだけでも気分転換になるといった楽しみ方ができるところに、定禅寺通のポテンシャルを感じる。中の様子や雰囲気、外ににじみ出るような特徴的な建物が多い。

また、端と端が公園になっていることは、他の通りにはない大きな特徴。勾当台公園の方ではイベントなどが盛んだが、西公園の方にも、イベントなどの利活用、特に私たちの世代や大人が楽しむことができる利活用が広がって欲しい。

市や民間の方々の話を伺い、新たな視点に触れることができた。このような議論を積み重ね、さらにより定禅寺通像を膨らませていければよいと思う。

意見交換（まとめ）

芝浦工業大学環境システム学科教授 鈴木 俊治 氏

パブリックスペースを活性化する重要な箇所は、建物の壁と歩道との際（きわ）、エッジであり、ここで最もアクティビティが起こりうる。通りに面した建物の1階部分に開放性がある、そうでなくとも中が見えるといったことが重要。人々の関心を引くような物事が定禅寺通のあちこちにあれば、歩く人はゆっくなりになり、表情は緩み、会話が増える。

ゆっくりに歩くことに加え、座れるということも大切なこと。定禅寺通には座る場所がたくさんあるように見えるが、実際は主に通り過ぎる場所となっていて、工夫の余地は多い。

ケヤキについては、都市の並木は樹木の生息環境としては厳しく、弱ったり傷んだりということが必ず出てくる。われわれ人間は、どういった緑を次世代に伝えていけばよいかを考え、緑の管理者としての責任を果たさなければならない。このようなフォーラムを契機に、ひとりひとりが思っていることを発言し、共有し、議論が続けられるとよい。



コーディネーター：東北大学大学院工学研究科准教授 姥浦 道生 氏



みなさんの共通認識として、杜の都の象徴と言えば定禅寺通であり、定禅寺通というのは仙台の宝物だと思っていっぱい感じるように感じた。ここをどうしていくのか、ということは仙台市にとって非常に重要なポイントになると思う。

その中で2点申し上げられることがある。一つは、パブリックライフというものをどのようにしていくのかということ。エッジの話、面的な広がりのお話、音楽がその力になるという話、場合によっては道路構成を変えていくべきではないかという話、様々なアイデアが出された。

もう一つは、つくっていくプロセスをどのようにするのかということ。地域の方だけでなく、市民の方だけでなく、また、市役所だけが頑張っても難しいと思う。ビジネスをやっている方を含む地域の方、市民の方、市役所の方、これら三者がうまく連動して取り組んでいくことが肝心だと思う。

参加者アンケートより（一部抜粋）

- ・ 定禅寺通を整備する際には、ケヤキに優しい造りにしていただきたい。今後もケヤキが元気に育つように。
- ・ どうしてもヨーロッパをイメージしてしまう。せっかくの仙台・城下町であり、和と洋の融合したものや、仙台独自のものとなればよい。
- ・ 道路に建物がいじみ出す点はこれからの検討だが、民地の側に道路から引込むことも重要。はみ出す・引込むの凹凸をうまくデザインすることが、空間を豊かにすると思う。
- ・ 道路構成の再検討が重要なポイントになると感じた。
- ・ 実現のための記録・観察の大切さが聞いてよかった。
- ・ 一口に定禅寺通と言っても、晩翠通で東西に、中央緑道で南北に分かれていると思う。それらの連続性についての話も聞きたかった。
- ・ エッジの活用という話と、歩く速度の話が興味深かった。多方面の利害を調整しつつ、よりよい街・通りになればよい。



◇お問い合わせ◇

仙台市 まちづくり政策局 政策企画部

定禅寺通活性化室

〒980-8671 仙台市青葉区国分町三丁目7番1号

電話：022-214-1255 FAX：022-214-8037

e-mail：jozenji_dori_k@city.sendai.jp